

『チームメンバー研修』

研修会実施報告

日時 : 令和元年 7月 29日

対象者 : 31名

参加者数 : 32名 (一般参加者1名)

目的 : 1.フィジカルアセスメントの意義を理解し EBN に基づいた看護が提供できる
2.実地指導者として役割モデルとなる行動ができる

<講師の紹介>

放送大学大学院文化科学研究科

生活健康科学教授 山内 豊明先生

1985年新潟大学医学部を卒業され医師として勤務されたのち、1997年アメリカでナース・プラクティショナーの免許を取得される。帰国されてから2002年名古屋大学医学部基礎看護学講座教授を経て現在の放送大学で活躍されている。当院においても20年近く講師として「フィジカルアセスメント」「必要度」研修の講義をされている

代表的な著書

「フィジカルアセスメントガイドブックー目と手とでここまでわかるか」「患者さんのサインを読み取る！山内先生のフィジカルアセスメント 症状編ナース専科 BOOKS」など



<内容>



今回の研修はフィジカルアセスメントの重要性を再認識できる講義でした。看護の原点ともいえる患者の言葉を聴き、身体に触れ、観察することの大切さや、得た情報を統合的にアセスメントすることの必要性を学びました。また、実際の呼吸音を聞かせてもらい、その違いでどのようなことが身体で起こっているのかを学び、すぐに応用できる内容でした。

卒後1~2年生のみならず指導する立場である実地指導者にとっても学び多いものであり、今後の指導に活用できるものでした。それぞれが今後の看護ケアに繋げていけることを期待したいと思います。